

「住宅の耐震化に関するアンケート」の結果

平成 25 年 9 月実施

「住宅の耐震化に関するアンケート」の結果

平成 25 年 9 月に、来迎寺町町内会会の区域にお住まいの方を対象に行った「住宅の耐震化に関するアンケート」では、190 件（回収率 80.9%）の回答をいただきました。

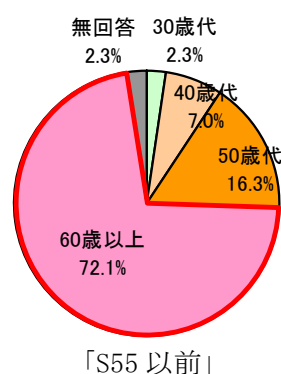
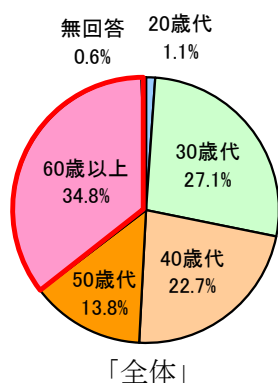
これについて、以下の 2 種類の集計を行いました。

区分	集計方法	集計対象件数 (有効回答数)	以下での表記
(1) 単純集計	すべての回答についての集計	181	「全体」
(2) 昭和 56 年以降の 建築を除く集計	問 4 で建築時期が「昭和 56 年以降」である とした方の回答を除いた場合の集計	43	「S55 以前」

この 2 種類（「全体」及び「S55 以前」）の集計結果を比較しながら、アンケート結果でポイントになると考えられることを、以下に整理します。

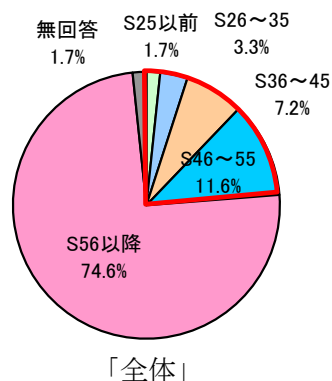
●住宅の建築年代と居住される方の年齢（問 2）

回答者の年代は「全体」よりも「S55 以前」の方が高くなっています。今回のアンケートは、主として世帯主の方に回答していただいていると考えられることから、古い住宅に住まれている方は高齢の方が多いと考えられます。



●住宅の建築年代（問 4）

昭和 56 年以降に建築された住宅（新しい耐震基準で建築されたと考えられる住宅）の割合は、「全体」で 74.6%です。町内の 23.8%の住宅が昭和 55 年以前の建築になっています。



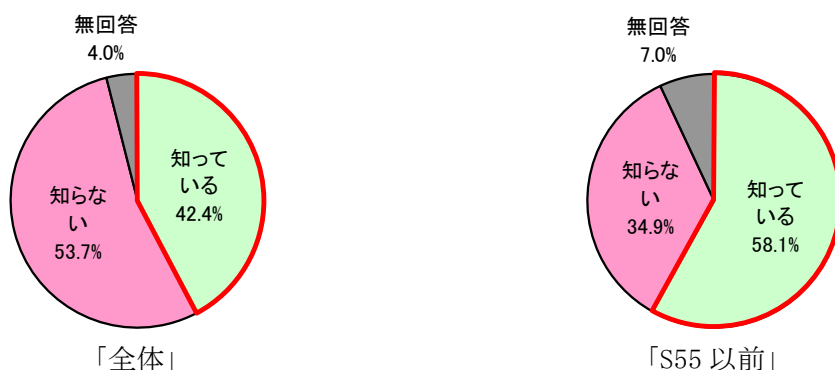
●無料耐震診断制度の認知度（問 6）

知立市が行っている無料耐震診断を「知っている」との回答は「全体」で約 60%、「S55 年以前」で約 88%です。無料耐震診断制度は全体で 6 割程度の方に認知されており、古い住宅にお住まいの方ほど認知度はより高いと言えます。



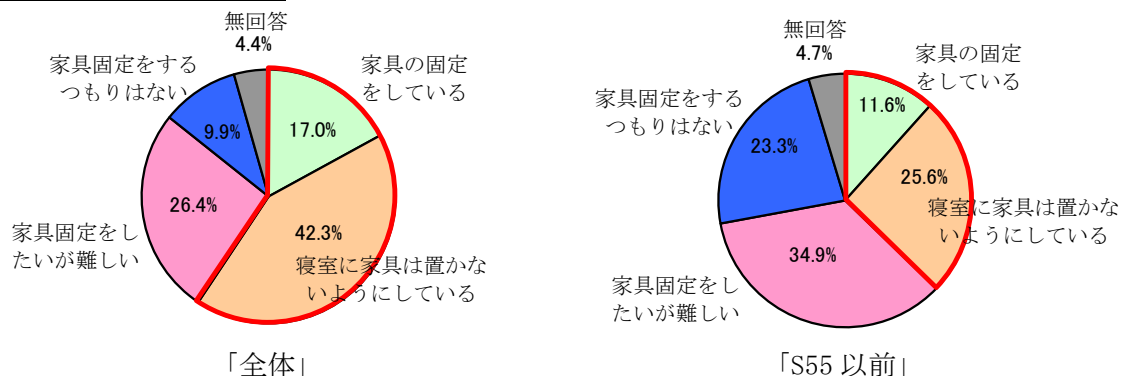
●耐震改修補助制度の認知度（問 12）

知立市が行っている耐震改修補助制度を「知っている」との回答は、「全体」で約 42%、「S55 以前」で約 58%です。耐震改修補助制度は 4 割程度の方に認知されており、古い住宅にお住まいの方ほど認知度はより高いと言えます。



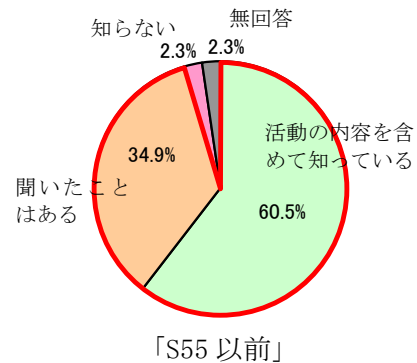
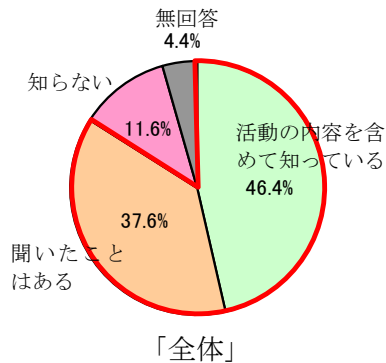
●家具の転倒防止等対策の実施（問 17）

「家具の固定をしている」や「寝室に家具は置かないようにしている」など、何らかの家具の対策を行っているのは、「全体」で約 59%、「S55 以前」で約 37%と、古い住宅にお住まいの方が少なくなっています。



●自主防災組織等の活動の認知度（問 21）

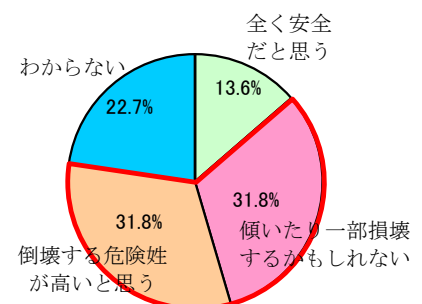
来迎寺町における自主防災組織について「知っている」との回答は、「全体」で 84.0%（うち活動内容を含めて知っている約 46%）、「S55 以前」でも約 95%（同約 61%）です。地域の防災活動は大半の方に認知されていると言えます。



これ以降は、耐震化の主な対象になる古い耐震基準で建てられた住宅の状況として、「S55 以前」の集計から主要なことがらを整理します。

◆地震に対する不安（問 5）

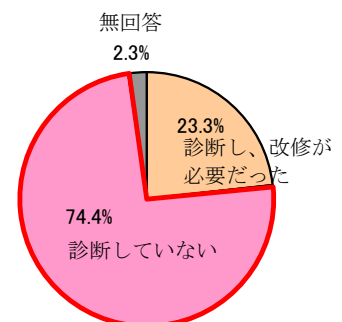
大きな地震が起きた場合、住まいが「傾いたり、一部損壊するかもしれない」「倒壊する可能性が高いと思う」はともに約 32%です。6 割以上の方が地震時の住宅の安全性に不安を持っています。



◆無料耐震診断の実施（問 7、問 8）

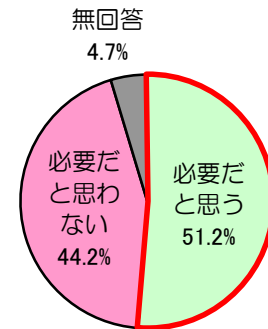
「耐震診断はしていない」のは 74.4%（32 件/43 件）です。
その理由として多いのは次の 3 点です。

- ・ 耐震改修を実施する予定がないから：46.9%
- ・ 耐震診断しなくても大丈夫と思っているから：18.8%
- ・ なんとなく面倒だから：18.8%



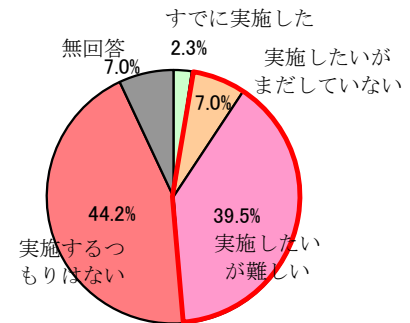
◆耐震改修の必要性（問 9）

耐震改修が必要だとの認識は、5 割の方がお持ちです。



◆耐震改修の実施意向（問 10）

耐震改修を「実施したいが、まだ耐震改修をしていない」は約 7%、「実施したいが難しい」は約 40%です。4 割半ばの方が実施したいとの意向をお持ちです。一方「実施するつもりはない」方は約 44%です。



回答		割合
1	近い将来実施する予定	0.0%
2	誰に相談していいのかわからない	4.8%
3	改修費用が高く負担できない	52.4%
4	高齢のため面倒である	19.0%
5	改修しても効果があるか心配である	28.6%
6	近いうちに建て替えまたは住み替えるので、今は費用をかけたくない	4.8%
7	他のリフォームをしたばかりで、今は費用をかけたくない	11.9%
8	何をしたらいいのかわからない	4.8%
9	家の中に他人を入れたくない	4.8%
10	地震が起きるかどうかかわからない	9.5%
11	もう高齢なので耐震改修を実施しても長い間住めないからもったいない	19.0%
12	改修の際に移転が必要になるなど、生活環境が変わるのが不安	9.5%
13	その他	16.7%
	無回答	4.8%

※N=42

◆耐震改修をするために望む支援（問 13）

耐震改修をするために望む支援は、以下のような割合になっています。

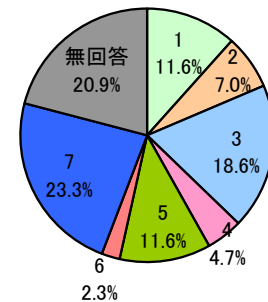
回答		割合
1	気軽に相談できる人を紹介	9.3%
2	相談窓口の設置	16.3%
3	最低限の費用でできる方法を教える	44.2%
4	補助金の増額や融資制度を充実	39.5%
5	信頼できる建築設計士や工務店などを紹介	18.6%
6	改修に関する各種の情報の提供	11.6%
7	その他	7.0%
	無回答	25.6%

※N=43

◆耐震改修をする場合に負担が可能な額（問 14）

耐震改修をする場合に負担が可能な額は、次のようになっています。

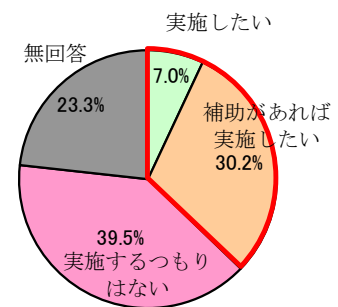
回答		割合
1	20 万円未満	11.6%
2	20～50 万円未満	7.0%
3	50～100 万円未満	18.6%
4	100～150 万円未満	4.7%
5	150～200 万円未満	11.6%
6	200 万円以上	2.3%
7	負担は難しい	23.3%
	無回答	20.9%
合計		100.0%



◆簡易な耐震改修（問 15）

寝室のみを補強するなど少しの費用で行う少しの改修を、「実施したい」（“補助があれば”を含む）は約 37%、「実施するつもりはない」は約 40%です。簡易な耐震改修であっても実施しない方が若干多い結果となっています。

「実施したい」理由で最も多いのは「最低限命が守ればよいため：62.5%」、「実施するつもりはない」理由で最も多いのは「家が倒れない改修でなければ意味がないため：61.1%」です。



◆耐震改修をする場合の相談相手（問 16）

耐震改修をする場合の相談相手としては、以下のような割合となっています。

回答		割合
1	建築設計士	32.6%
2	大工・工務店	39.5%
3	ケア・マネージャー	0.0%
4	ホームヘルパー	0.0%
5	民生委員	2.3%
6	市役所の職員	20.9%
7	家族・親族	16.3%
8	知人・友人	2.3%
9	その他	2.3%
	無回答	16.3%

※N=44

《住宅の耐震化を進めるために、市や地域活動はどうしていけばよいか等》

以下は、自由意見（問 26）をもとにして、項目ごとに整理したものです。

■耐震改修等の促進

○補助制度・税制

- ・ 耐震を無料で行ってほしい。
- ・ どの程度の強化まですればいいのか分からないので、工事例をあげ、震度いくつまでなら耐えられそうか、表で示して欲しい。
- ・ 戸別の具体的対策、費用等が相談出来る機会と場所を設定したら良いと思います。
- ・ 補助金制度の充実。消費税も上がるので、これからはお金を使うのに大金になればなるほど、慎重になる為。
- ・ やはりお金がかかる事なので、補助金をもっと増やした方が良いと思う。
- ・ 助金等の支援制度の充実と具体的な耐震化の取り組み方の提案。
- ・ 金銭面の補助を厚くして欲しい。市に相談員を置いて欲しい。
- ・ 耐震実施に向けた家々の問題点、悩み（費用面）等の把握と助言の窓口設置（市⇄町）

○耐震診断・戸別訪問

- ・ ①全戸に往復葉書等で無料耐震診断や知立市の補助制度について知らせる。
②無料耐震診断を受けたい人は、返信用葉書に記入して投函する。
③市の担当者から連絡をして、診断をするかどうかも含め、具体的に進めていく。
④耐震工事の必要がある場合は、改めて費用や補助金を含め、相談に乗る。
- ・ 無料耐震診断を、全ての家に実施してほしいです。なかなか自主的にやるというのは、億劫な人もみえると思います。その後、耐震改修の為に、何をしたらいいのか、色々アドバイスしてほしいと思います。
- ・ 個別訪問や電話勧誘して、無料耐震診断や耐震化の必要性、メリット等説明し、まずは無料耐震診断を受けてもらう。無料耐震診断を受けた後もフォローする。個別訪問や電話勧誘が難しい場合は、もっと分かりやすいパンフレットを作成する。
- ・ 建築年数の長い家、古い木造住宅などに市の職員が訪問し、耐震診断について説明し、診断を受けてもらえる様に促す。

○家具の固定等

- ・ ①S56 年以前に建築された家屋に、簡易的な耐震補強物品の開発。
②家具等の固定も必要ですが、どうすれば安全な家になるか、市はアドバイス必要（自助、共助も必要。しかし、インフラ整備も市民に伝達してもらいたい）（寝ている時。家に家族でいる時。通勤・通学等移動時⇒24 時間シミュレーションして、アドバイス必要。学校、会社等、室内で対応。）
- ・ 家具固定の L 金具は壁のどこにどのように取付けたらよいか分からない。具体的に教えて欲しい。必要な道具があれば貸出して欲しい。
- ・ 耐震化には多額な費用負担となるので、まず、寝室などの家具等の転倒防止器具の設置を進めるべき。自分で出来ない人の為、町内会の支援や設置者（業者）を行政が紹介する制度があれば少しでも進むと思います。

○空き家

- ・ 私の実家では、空家を町が利用して、町の建物などに個人の災害用の時に必要な物を置いて頂くシステムが有り、又区長さん役員の方が老人の声かけして、必要品を同じ様に置いて頂き、半年から1年に2回位個人の再チェックする事で、各家庭の中でも見直しを進め、自分の出来る事から始めてます。家の中にペットボトルの水の買い置きなどでも、防災に対する心構えになる様です。
- ・ 古い家は建て替えるか取り壊す。倒壊したら、他に被害が及ぶ可能性を減らす。

○避難所・避難経路等

- ・ 災害発生時は自身の命を守ることが重要。その為には、耐震化の必要性について木造づくりで昭和56年以前の家屋に絞り、説明会、勉強会の参画に重点を置いた支援。
- ・ 災害発生時の連絡網の必要性について、隣人、組毎の安否確認と救助要領（町：年毎）、隣町への救助と要請取り決め（市⇄町）
- ・ 地震発生時に各家庭でやるべきことを自主防災会が作成し、家庭で目立つところに貼れる形にして配布する。
- ・ 耐震化強化策の組織を策定し、真から耐震化を進めることが必要と思う。耐震化に積極的でない人をどう方向付するか。
- ・ 年1回、来迎寺小学校への避難訓練をすべき。
- ・ 「安否札」救命切り札。『我が家は無事です。 ○○○町内会 知立市』
用紙サイズ A4 ピンク色用紙
掲示 玄関先 掲げない家は、住民見回り。
高齢者や障害者の問題が見えるようになる。
- ・ 背の高いタンスは避ける。低いチェストがベスト。重い瓦の屋根より軽い屋根にする事により、下敷きになる事を防ぐ！
- ・ 町内会等で、あまり広範囲ではない規模で、耐震診断、耐震化についてセミナーなどを行う。築年数の長い家の人には、出来るだけセミナーを受講してもらう様促す（具体的に、築○年以上の家など提示する）
- ・ 防災訓練をより多くして、いざと言う時に素早く行動出来ると良い。
- ・ 市民に巨大地震が起こった時の想定される被害を周知させ、耐震に対する意識をまずは向上させるべきではないか。

○その他（耐震化全般について）

- ・ 学校の町内防災放送が聞き取れ無いです。
- ・ すぐ行動できる若い職員や技師を増やしておいてほしい。
- ・ 電気・ガスが止まっても、それに変わるエネルギーを開発しておいてほしい。
- ・ 電柱を無くし、地下配線にして欲しい。
- ・ 液状化に対する調査・対策を早急にしてほしい。